

ふるさとへぐり再発見

平群氏と平群谷古墳群

5



平群谷は奈良盆地より奥まった位置にあり、遺跡の分布が完結する地域として研究の対象にされてきました。

特に、その古墳群は古代の豪族平群氏の首長などの墓と考えられてきました。

現在、平群谷には六十基余りの古墳が知られており、今後調査が進めば百基程度に増加すると思います。

これらは、五世紀の後半から七世紀の後半にかけて築かれ、大部分は円墳ですが、前方後円墳や方墳も存在し、築造順序も検討されています。

しかし、古事記や日本書紀に書かれている平群氏の木菟・真鳥・鮪などが大臣として優勢だった時期は五世紀代を中心としており、町内の古墳の時期と合わないのです。

その後、平群神手^{みわて}が聖徳太子の物部守屋^{もりや}征伐に参加し、平群寺(平隆寺)を創建したとの記述もあり、平群氏が復興したことがわかります。

このため、五世紀前半の巨大古墳を平群谷の外に求め、平群氏の衰えた後に平群谷に引きこもったとの考えがあります。また、奈良時代に平群宇志^{うし}が日本書紀の編纂^{へんさん}に加わっているこ

とから、五世紀代の記述はこの時に書き加えられたとする説もあります。

いずれにせよ、平群谷で古墳時代前半の顕著な遺跡は確認されておらず、空白の時代となっています。

弥生時代末から古墳時代の初めにかけて、大和で大きな政情変化があり、その影響が平群谷の遺跡分布にも表れたのでしょうか。

